

レースっていいよね
第46回 「いいモノつくりたい」の巻

以前、まだMCにいたとき、昼食を取りながら汎用加工機の鬼、Kさんとの談話の中でKさんは、「ホントにいいモノは一生のうち、そう何個も出来ないよ」と話していた。当時その話を聞いて、私は正直なところ「も、もうちょっと作れるんじゃない？」と感じた。

この辺の、「何をよしとするか」という判断基準は、各個人の価値観に著しく左右されるわけでテストの点数のように、数字で明瞭な解釈の余地がない。

結局、どの辺りに合格ラインを据えるかで、その内容は随分変わってしまう。工業製品を作っていて、いつも感じるのはこんなコトだ。売れば「よし」なのか。安ければ「よし」なのか。凝っていれば「よし」なのか。造形が良ければ「よし」なのか。

工業製品の場合、特にワンオフでモノを作っていると、あたかも自分の血肉を分けた子供のような・・・という大袈裟だけど、とにかく思い入れが深い。Kさんはとりわけ、その思い入れが強かった。他人の作ったモノにも厳しかった。

ステンレスで出来ている、某メーカーのスケール(定規)を買ってきて、「俺ね、これ、このバリが気になるんだ」と言いながら、自分でスケールの端面にヤスリをかけていた。確かに、ヤスったのと、新品の「それ」とでは、手に持った時の馴染みが違う。でも大抵の人は何の文句も無く、買ってきたらすぐに使ってると思う。バリがあることなぞ、気にも留めないだろうと思う。いや、正確には「バリ」と書くほどの「有害なバリ」ではないのだ。

決して某メーカーが製造過程で仕上げを怠っているのではなく、あくまでもKさんの感覚が鋭い、というか自身の設けた基準が厳しいのである。

最近、自分自身でモノを作りながら「ホントにいいモノは一生のうち、そう何個も出来ないよ」という、Kさんの言葉が頭から離れない。

かつては「も、もうちょっと作れるんじゃない？」と思った自分だけれど、実際、そうかもしれないなあ・・・と、とみに感じる。モノを作るというのは本当に、それほどまでに難しく、奥が深いコトなのだなあ、と色んな意味でまさに「是、日々勉強」

ちなみに、自分的にPeugeot・206CCはよく出来てると思うんだけど、Kさんの視点に立って見てみると「う～ん、ホントにいいモノと呼ぶにはマダ甘いな」ってことになるなあ。。。 (笑)
勿論、量産されてる乗用車の中で比較すればダントツに良いし、満足してんだけど。

まったく、「いいモノつくりたい」ものである。